

# 令和4年度 学校評価結果について

専修大学松戸中学校・高等学校

本校では、生徒がより良い学校生活が送れるように、また学校運営の改善と発展を目指すため、「学校評価」の一貫として、「生徒を対象とした授業評価アンケート」、「教員を対象とした学校自己評価アンケート」及び「卒業生及び保護者を対象とした学校評価アンケート」等を実施致しています。令和4年度におけるこれらの「学校評価」のうち、「生徒を対象とした授業評価アンケート」につきましては、既に昨年の12月に集計結果を公表致しました。

今回の学校評価結果は、昨年末及び3月に実施致しました「卒業生及び保護者を対象とした学校評価アンケート」の結果集計です。中学校及び高校で実施致しました学校評価アンケートの実施日、実施方法及びアンケート項目等は以下の通りです。中学校、高校は平成29年度からの結果と併せて掲載していますので、ご高覧戴ければ幸いです。

本校においては、これらの評価結果及びご意見等を真摯に受け止め、より良い学校づくりに向けて改善に取り組んで行く所存です。

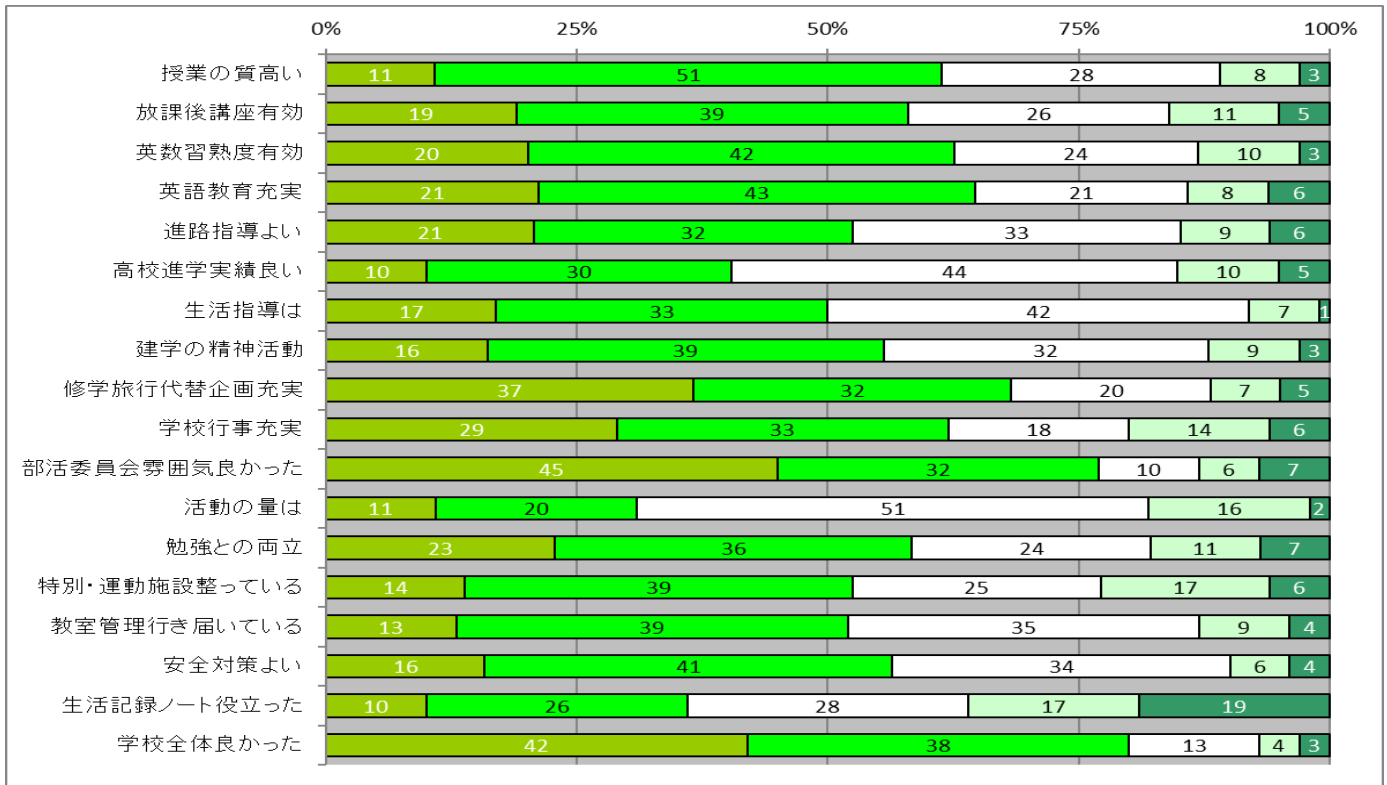
さらに、今後とも学校としての自己点検・評価及び学校関係者評価の方法等含めて学校評価の方法について、さらに精査を図り教育内容の改善に取り組んでいく所存です。

## 卒業生及び保護者を対象とした学校評価アンケートの内容

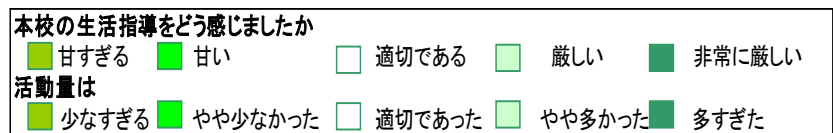
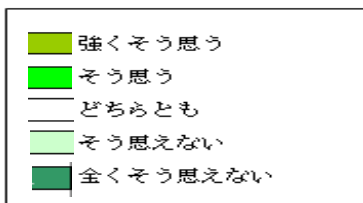
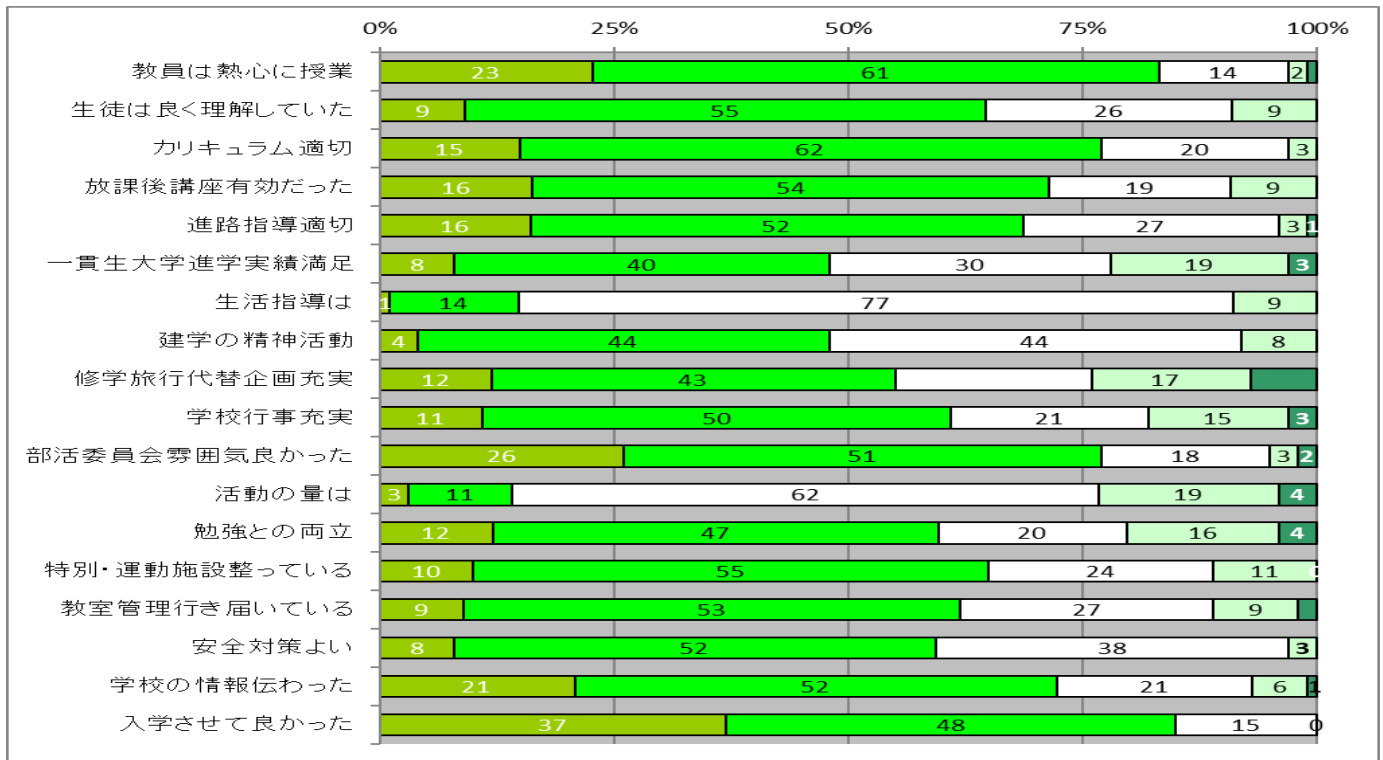
- ① 実施対象者：3月に卒業した中学校及び高校の3年生（卒業生）及び卒業生の保護者全員
- ② 実施方法及び実施日：卒業生には、アンケートを教室で配布し、記入後回収する方法。  
保護者には、卒業生を通して配布し、後日回収する方法。  
中学校 令和5年3月14日（火）（卒業生）  
令和5年3月18日（土）（保護者から回収）  
高校 令和4年12月12日（月）（卒業生）  
令和4年12月23日（金）（保護者から回収）
- ③ 評価項目：学習指導、進路指導、生活指導、学校行事等に関して、生徒に対して中学校17、高校14評価項目、保護者に対して中学校17、高校16評価項目。また、総合的評価項目として、生徒に対して「全体として本校で過ごして良かったと思う」、保護者に対して「全体として本校に入学させて良かったと思う」、それぞれ1項目。また、本校の教育に関して良い点及び改善すべき点に関する自由記述項目。
- ④ 回収率：中学校 卒業生97.3%(145名/在籍149名)、保護者78.5%(117名/在籍149名)  
高校 卒業生97.5%(398名/在籍408名)、保護者85.2%(348名/在籍408名)

以上

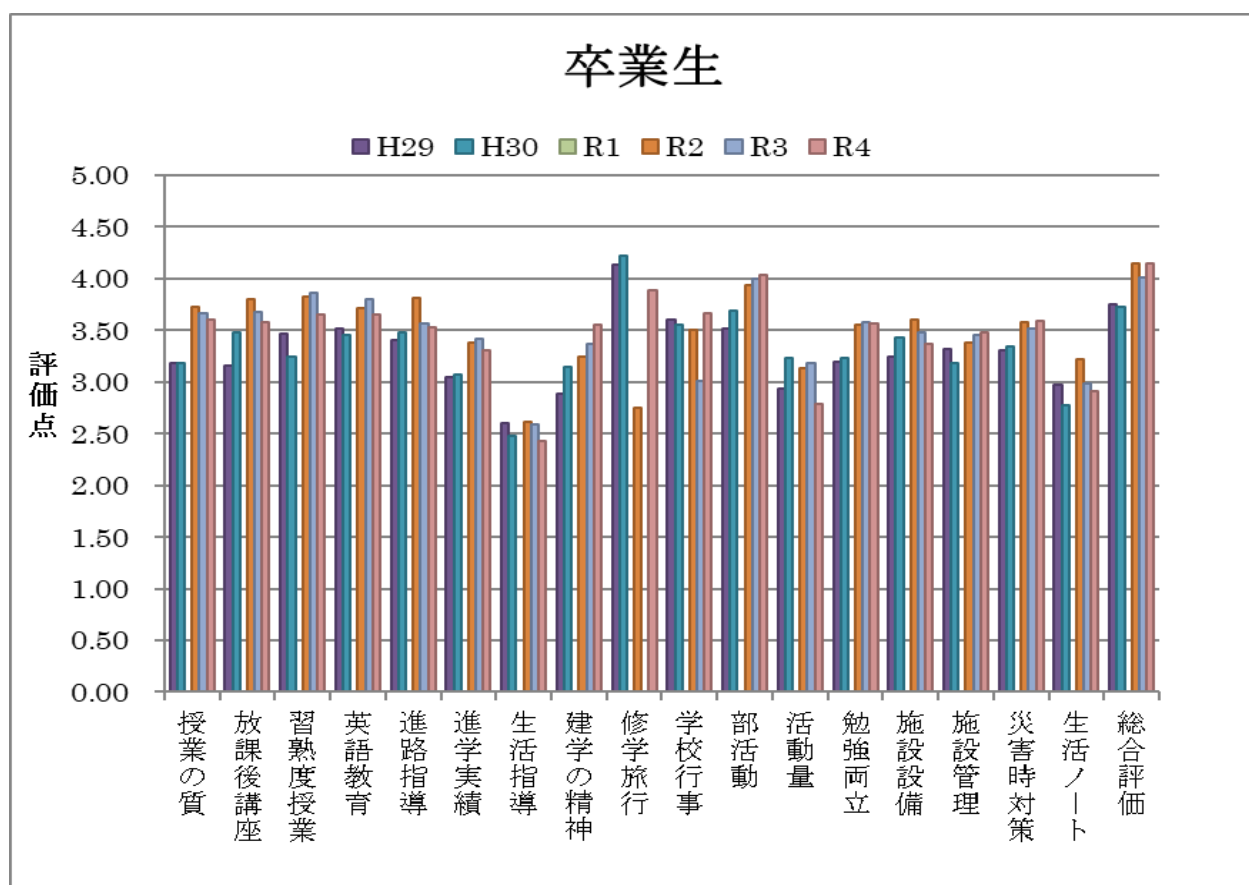
# 令和4年度 中学校の学校評価アンケート結果 卒業生



# 保護者



## 平成 29-30-R2-R3-R4 年度 中学校の学校評価アンケート結果

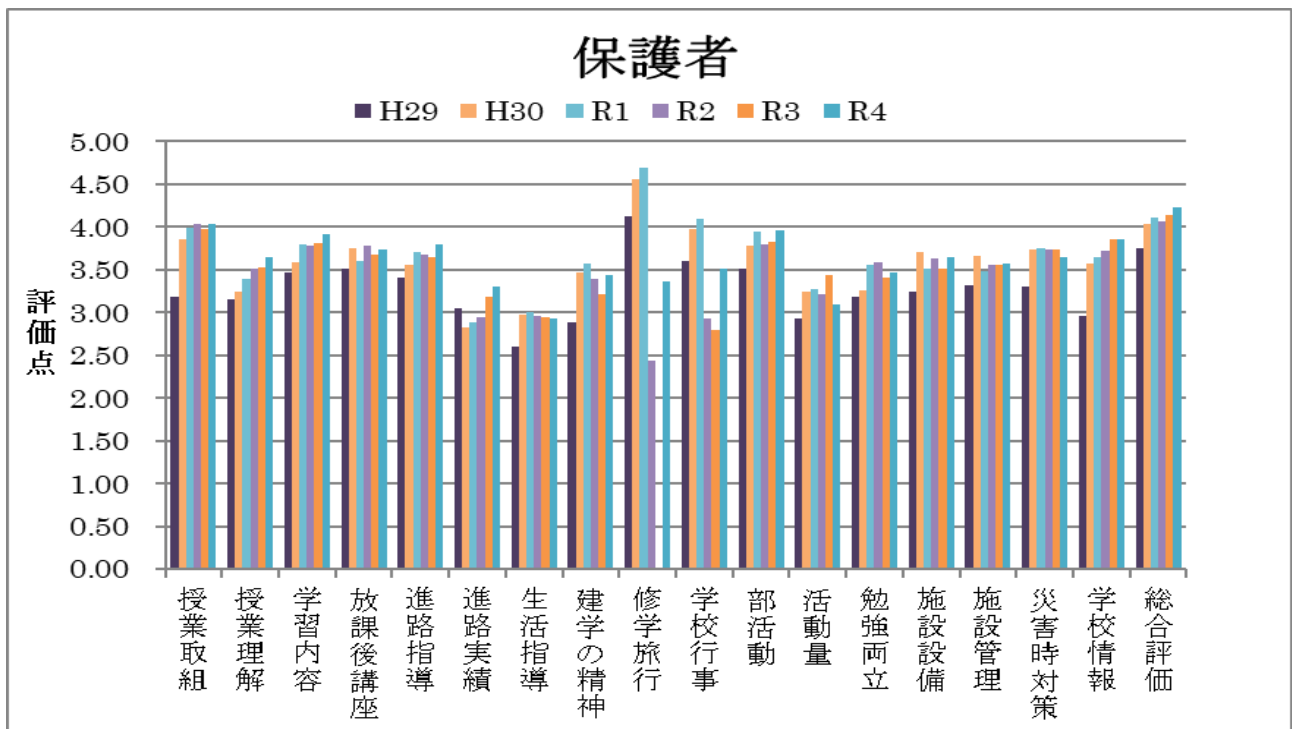


帯グラフの令和 4 年度の結果を見ると、評価項目のうち、総合評価項目である「全体として本校で過ごして良かったと思う」に対しては、「強くそう思う」(42%)と「そう思う」(38%)を併せると 80% (昨年 76%)、一方「そう思えない」(4%)と「全くそう思えない」(3%)は 7% (昨年 6%) の評価結果を得た。他の評価項目のうち、満足度の高い項目は、「部活動委員会の雰囲気良かった」77%、「修学旅行代替企画充実」69%、「英語教育充実」64%であった。一方、満足度の低い項目は、「部活動の量」31%、「生活記録ノート」36%であった。

各評価項目を 5 段階評価 (強くそう思う: 5、そう思う: 4、どちらとも: 3、そう思えない: 2、まったくそう思えない: 1) に数値化して、4 つの年度を取りまとめた結果が上記のグラフである。総合的評価項目である「全体として本校で過ごして良かったと思う」の評価項目の値を年次別に見ると、3.75 (H29)、3.72 (H30)、4.14 (R2)、4.01 (R3)、4.14(R4) の評価結果となり、ここ 5 年で最も高い数値となっている。他の個別の評価項目における年次ごとの評価点の変化については、今後精査していく必要がある。

記述項目における「本校の教育に対して良かった点及び改善すべき点」に関しては、卒業生 106 名から、それぞれ回答を得た。良かった点としては、「ネブラスカ修学旅行代替企画」、「英語教育」、「各種学校行事」、「先生の熱意」、「友人関係」、「進路指導」等の意見があった。一方、改善すべき点としては、「施設設備」、「生活指導 (校則)」、「補習」等の意見があった。

各評価項目に対する評価結果及び自由記述に対する意見等をふまえるとともに、さらにデータを精査してより良い中高一貫 6 年間の学校づくりを目指して改善を図っていききたい。



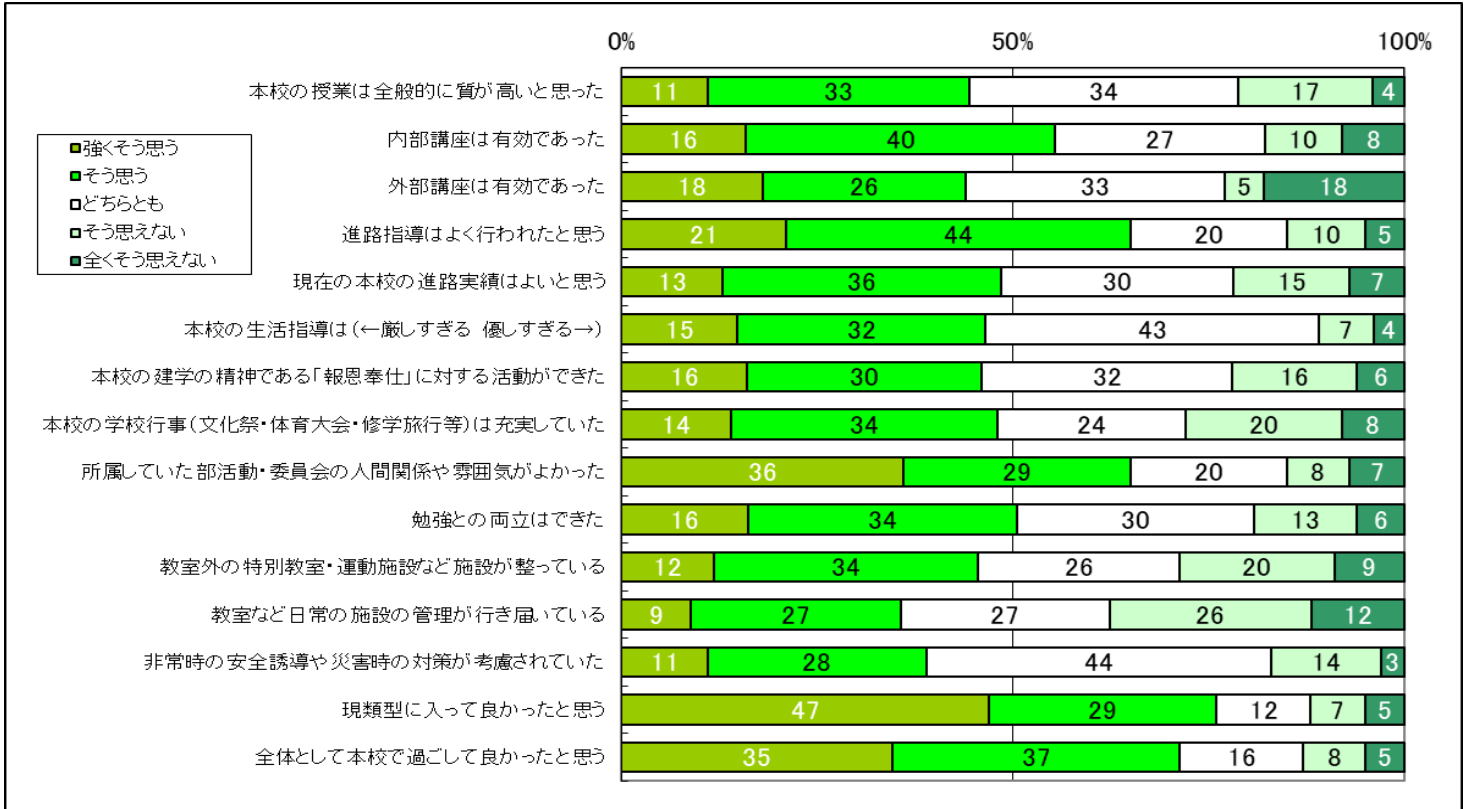
帯グラフの令和4年度の結果を見ると、評価項目のうち、総合評価項目である「全体として本校に入学させて良かったと思う」に対しては、「強くそう思う」(37%)と「そう思う」(48%)を併せると85%(昨年83%)、一方「そう思えない」と「全くそう思えない」はともに0%(昨年13%)の評価結果を得た。他の評価項目のうち、満足度の高い項目は、「教員は熱心に授業」84%、「カリキュラムが適切」77%、「部活動委員会の雰囲気良かった」77%であった。一方、満足度の低い項目は、「活動量」14%であった。

各評価項目を5段階評価(強くそう思う:5、そう思う:4、どちらとも:3、そう思えない:2、まったくそう思えない:1)に数値化して、4つの年度を取りまとめた結果が上記のグラフである。総合的評価項目である「全体として本校で過ごして良かったと思う」の評価項目の値を年次別に見ると、3.75(H29)、4.03(H30)、4.11(R1)、4.06(R2)、4.14(R3)、4.23(R4)の評価結果となり、ここ6年で最も高い数値となっている。他の個別の評価項目における年次ごとの評価点の変化については、今後精査していく必要がある。

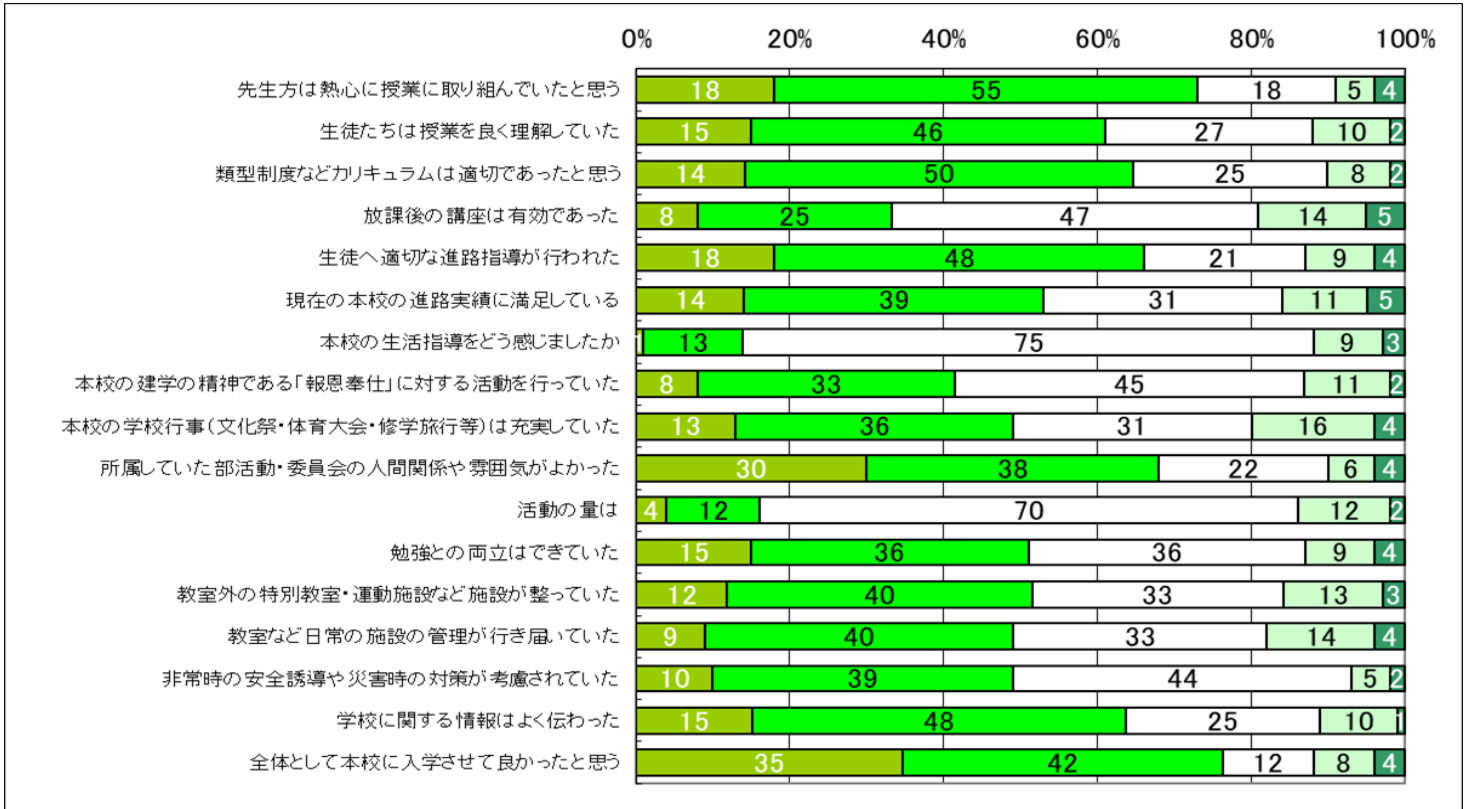
記述項目における「本校の教育に対して良かった点及び改善すべき点」に関しては、保護者72名から、それぞれ回答を得た。良かった点としては、「コロナ禍の対応」、「先生の熱意」、「英語教育」、「英検等の各種検定取得」、「学校の雰囲気」、「代替行事」等の意見があった。一方、改善すべき点としては、「施設設備」「進学実績」「カリキュラム」「講座・補習」「部活動の内容」「生活指導」等の意見があった。

保護者の評価結果及び自由記述に対する意見等をふまえるとともに、さらにデータを精査してより良い中高一貫6年間の学校づくりを目指して改善を図っていきたい。

# 令和4年度 高校の学校評価アンケート結果

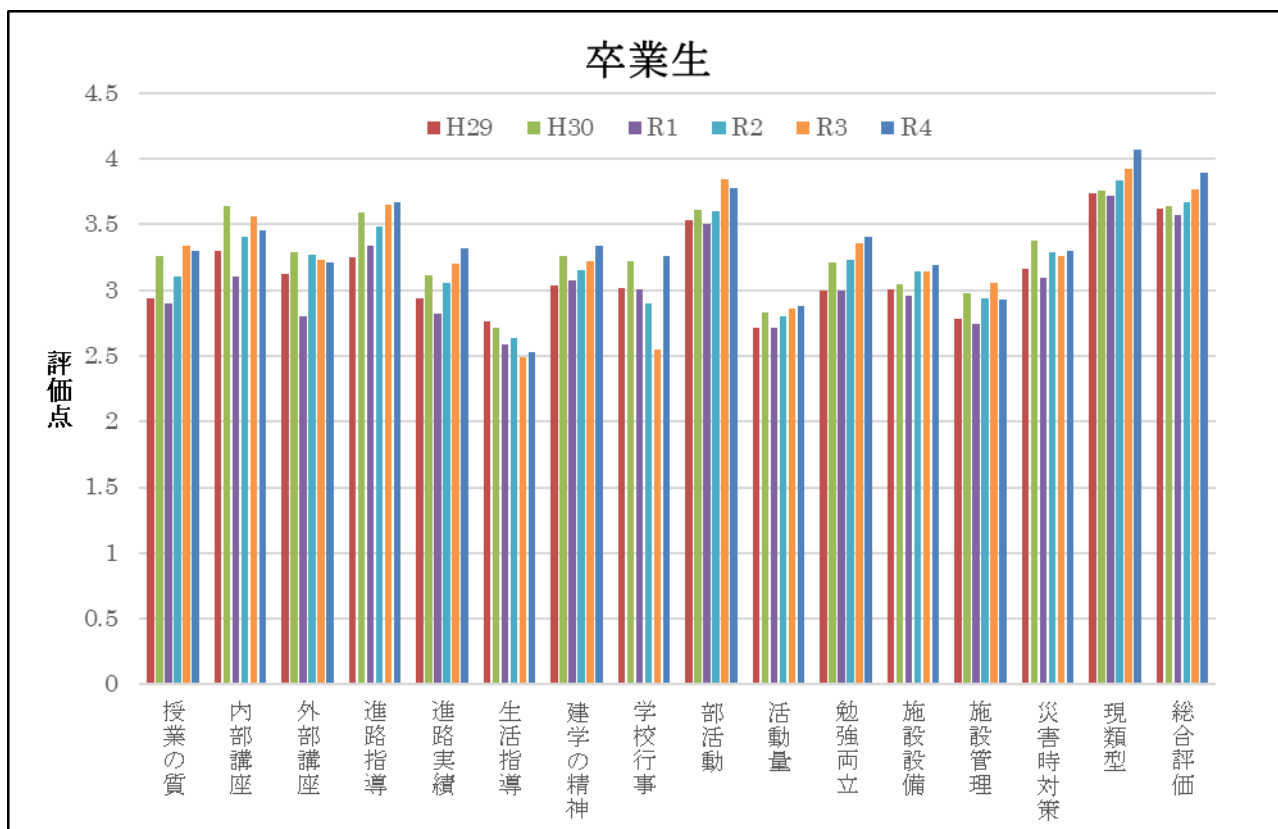


## 保護者



本校の生活指導をどう感じましたか  
 ■甘すぎる ■甘い □適切である □厳しい ■非常に厳しい  
 活動量は  
 ■少なすぎる ■やや少なかった □適切であった □やや多かった ■多すぎた

# 平成 29-30-R1-R2-R3-R4 年度 高校の学校評価アンケート結果

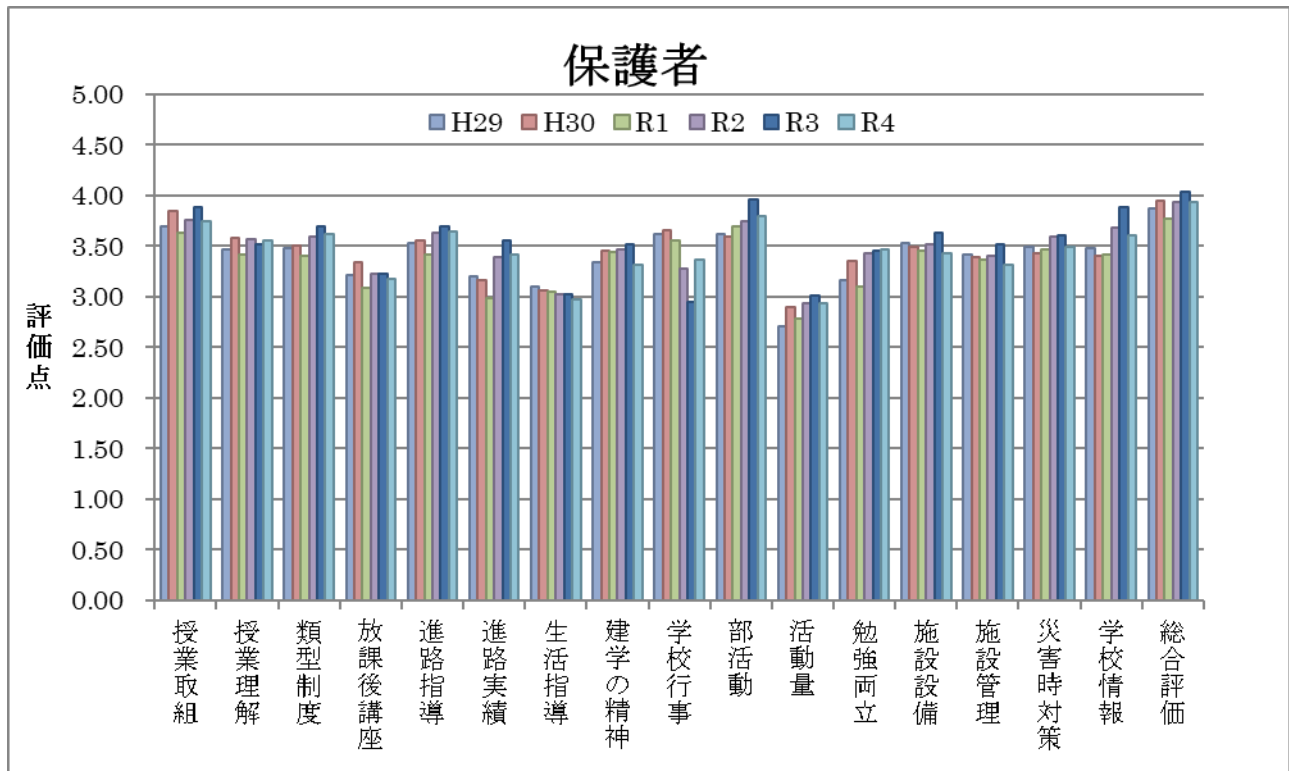


帯グラフの令和 4 年度の結果を見ると、評価項目のうち、総合的評価項目である「全体として本校で過ごして良かったと思う」に対しては、「強くそう思う」(35%)と「そう思う」(37%)を併せると 72% (昨年 62%)、一方「そう思えない」(8%)と「全くそう思えない」(5%)は 13% (昨年 18%) の評価結果を得た。他の評価項目のうち、満足度の高い項目は、「現類型に入って」76%、「進路指導」65%、「所属していた部活動・委員会」65%であった。一方、満足度の低い項目は、「施設管理」36%、「非常時の安全誘導や災害時の対応」39%であった。

各評価項目を 5 段階評価 (強くそう思う : 5、そう思う : 4、どちらとも : 3、そう思えない : 2、まったくそう思えない : 1) に数値化して、4 つの年度を取りまとめた結果が上記のグラフである。総合的評価項目である「全体として本校で過ごして良かったと思う」の評価項目の値を年次別に見ると、3.62 (H29)、3.64 (H30)、3.57 (R1)、3.67(R2)、3.77(R3)、3.89(R4) の評価結果となり、ここ 6 年で最も高い数値となっている。他の個別の評価項目における年次ごとの評価点の変化については、今後データを精査していく必要がある。

記述項目としての「本校の教育に対して良かった点及び改善すべき点」に関しては、217 名の生徒から回答を得た。良かった点としては、「内部講座の充実」、「先生方の面倒見」、「教科指導」、「先生方の熱意」、「授業の質」、「部・委員会活動」及び「進路指導」等についての意見があった。一方、改善すべき点としては、「教科指導含めた教員の指導」、「生活指導」、「カリキュラム」、「授業のレベル (質)」、「施設設備」、「学校行事」及び「各教科の授業進度」等についての意見があった。

各評価項目に対する評価結果及び記述項目での改善すべき点等を踏まえるとともに、今後さらにデータを精査してより良い学校づくりを目指して改善を図って行きたい。



帯グラフで示された令和4年度の結果を見ると、評価項目のうち、総合的評価項目である「全体として入学させて良かったと思う」に対しては、「強くそう思う」(35%)と「そう思う」(42%)を併せると77%(昨年72%)、一方「そう思えない」(8%)と「全くそう思えない」(4%)は12%(昨年12%)の評価結果を得た。他の評価項目のうち、満足度の高い項目は、「先生方は熱心に授業に取り組んでいた」73%、「所属していた部活動・委員会」68%、「進路指導」66%、「類型制度などカリキュラムが適正」64%であった。一方、満足度の低い項目は、「部活動の量」16%であった。

各評価項目を5段階評価(強くそう思う:5、そう思う:4、どちらとも:3、そう思えない:2、まったくそう思えない:1)に数値化して、4つの年度を取りまとめた結果が上記のグラフである。総合的評価項目である「全体として本校で過ごして良かったと思う」の評価項目の値を年次別に見ると、3.87(H29)、3.94(H30)、3.77(R1)、3.93(R2)、4.04(R3)、3.93(R4)の評価結果である。他の個別の評価項目における年次ごとの変化については、卒業生の結果と同様に、今後データの精査を行っていく必要がある。

記述項目における「本校の教育に対して良かった点及び改善すべき点」に関しては、126名の保護者から回答を得た。良かった点としては、「教員の熱意・面倒見」、「学校の雰囲気」、「英語教育」、「進路指導」、「内部講座」、「文武両道」及び「学校行事(高校及びネブラスカ修学旅行含む)」等に関する意見があった。一方、改善すべき点としては、「施設設備」、「中高一貫の特性」、「教科指導含めた教員の指導」、「受験・進路指導」、「学校情報」、「補習」「補講」等についての意見があった。

卒業生の結果と同様に、昨年度に比べて評価点に変化した評価項目もあるので、今後さらにデータを精査してより良い学校づくりを目指して改善を図って行きたい。